

# わが町の文化財

53

木造の時計塔がそびえる石垣の脇には、かつて出石城の大手門が立っていたという。時計の文字盤にはローマ数字。和洋折衷のハイカラな外観で城下町ではひとときわ目立ち、シンボルとして住民や観光客らに親しまれている。1871（明治4）年、廃藩置県の直前に出石藩と地元名士らが協力して建造した。当初は、塔の上部で太鼓をたたいて時刻を知らせていたため、時刻を意味する「辰」と太鼓の「鼓」を合わせて辰鼓楼と名付けられたとされる。塔に時計が設置されたのは

① 木造の時計塔がそびえる石垣の脇には、かつて何が立っていましたか？

② この時計塔は、和洋折衷のハイカラな外観と書いていますが、何が「和」で何が「洋」なのですか？

③ 1871（明治4）年に建造され当時は、どのようにして時刻を知らせていましたか？

④ 今は、何時にどんな音が鳴って時刻を知らせていますか？

⑤ 記事を読んで、どんなことを思いましたか、感想を書きましよう。

名前

NIEワークシート／小学高学年～高校／国語、総合、朝NIE

## 豊岡市出石町 市指定 辰鼓楼

# 明治期から時伝え続け

「札幌市時計台」と同年の81 戦する出石の人たちの気質を（明治14）年。経緯を調べる 垣間見ることができると、新しいことに積極的に挑 江戸時代から明治時代にか

城下町に時間を知らせる「辰鼓楼」=豊岡市出石町内町



メモ 高さ約13mで、4層建。時計が設置されている最上層の内部に、かつて太鼓が設置されていた。文化財指定は1969年。アクセス JR山陰線八鹿、江原、豊岡の各駅から全但バスの出石行きで、それぞれ約30分。北近畿豊岡自動車道・八鹿水ノ山ICから車で約30分。（斎藤雅志）

けて、献身的な医療で住民に慕われた藩医がいた。自らが病床に伏した際、多くの見舞いを受けたという。藩医は回復した後、感謝の意味で当時の先端技術でつくられた時計を寄贈することに。青年2人を東京に派遣して技術を学ばせた。重りが下りる力を利用した機械式時計を完成させ、設置したと伝えられる。出石城下町では76（明治9）年に家屋の大半が焼ける大火事が発生している。豊岡市教育委員会文化財室の小寺誠室長は「時計が設置されたことにより、消沈していた出石の人たちは新しい時代の到来を感じるようになったのではないか」と思いを巡らす。第2次世界大戦中に時計の部品が盗まれる事件があったが、1952（昭和27）年に2代目となる新しい機械式時計を設置。老朽化により、76（昭和51）年 現在の電子式時計に付け替えられた。毎日午前8時と午後1時に太鼓の音が、午後5時には鐘の音が鳴る仕掛けで、今も城下町に時を伝え続けている。

